



特定非営利活動法人

とことこニュース

56号

目次

P2・・・やんちゃな武勇伝

P6・・・恋する季節

P8・・・ゲーム好きの社会人2年目が聞く！
1人暮らしの話編

P10・・・ポッチャで繋がる縁

P11・・・あとちょっとお願いします！！

P12・・・理事長挨拶

発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町二・二 東興ビル4F
一九八四年 八月 二〇日 第3種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行 価額百円



やらかし？

いいえ

武勇伝 です

※このコーナーはあいえるせんたーの障害者スタッフ達の過去のやらかし(事件)を面白おかしい武勇伝として自由に語っていただくコーナーです。

ダンディゴリラ編

皆さん、こんにちは！！

いかがお過ごしでしょうか？一日も早くコロナの収束を願うダンディゴリラです。

今回は、若き自分のエピソードを書きたいと思います。



エピソード 1 『車イスの暴走族』

電動車イスに乗る前の話で、手動の車イスに乗って後ろ向きに足漕ぎしていました。理由は前向きより後ろ向きの方が、動きやすいからです。養護学校の中学 2 年の時から高等部卒業まで学校内の廊下では、「車イスの暴走族」と呼ばれていました。(笑) 特に運動会では、50メートル競走で必ず 1 着か 2 着ぐらい速かったです。その運動会の種目であるリレーのアンカーで自分のチームが、優勝した事があります。その時の気持ちは、普通に『やったー！』という感じでした。あと危なかった事は高等部 2 年の時、養護学校内のリハビリ室の横にあるベランダの 1 メートル下へ後ろ向きのままでカーアクションシーンのように落ちた事があります。(笑) 幸い下には、コンクリートではなく芝生の上と車イスの押し手が、クッション代わりになっていて後頭部を打たずに助かりました。当時の事故原因は、スピードの出し過ぎて誤って落ちたのが原因です。(笑) 養護学校卒業後、施設へ入所しても車イスの暴走は続きましたが、あるきっかけで暴走するのを止めました。入所して 3 年目のある日、外で遊んでいた時、友人とはしゃぎ回っていたらスピードを出し過ぎて自分の乗っていた車イスが、横転して右眉毛に 5 針縫うほどの大怪我してしまいました。(笑) このきっかけで暴走族を卒業しました。仲間と暴走族を作った訳もなく自分一人の単独行動です。ヤンキーみたいですね！！(爆笑)

エピソード 2 『車イスのドッキリ？？』

旅行も結構行っているのでたくさんの思い出があります。その中で北海道へ行った出来事があります。

この時の北海道は、33歳の時 7 月に車イスを積んだレンタカーで家族は、妹・母 3 人で日高、富良野(ふらの)、屈斜路(くっしゃろ)湖、網走(あばしり)の 3 泊 4 日の旅に出かけた事です。北海道へ来て 3 日目に屈斜路湖へ行った時、湖の周りを母に車イスを押してもらいながら散歩していました。一歩手前、前ばかり見ていて下に砂場があるのに気づかないままの母は、そのまま自分を乗せた車イスを押し進んでいた時突然、車イスの車輪が砂場に沈みました。



43 年前

同時に車イスから砂場へしりもち状態で落ち、リアクション的に『痛い』ではなく『熱チィ〜！！』と飛び上がるような大声で叫びました。(爆笑)
母と妹二人がかりで自分をもう一度車イスに乗せ、振り返って看板を見ると、そこには「砂湯温泉」と書かれていました。まさか屈斜路湖に温泉があるなんて知らなかったです。あの時は、もうホンマに熱かったです。ドッキリかな？と思いました。(笑)

※屈斜路湖の砂湯温泉について※

ネットで調べてみると、今でも湖岸の砂を掘り起こしたら温泉が湧いているという。

エピソード 3『洗濯機の中で…』

前々回の 54 号にも書きましたが、覚えておられますか？ 今回は、その事を詳しく書きたいと思います。中学部 3 年生から高等部卒業するまで寄宿舎生活していました。

生活に慣れてきた高等部 1 年の時、ある休みの日に洗濯場へ行き、自分で洗濯していました。洗濯物を洗濯機に入れ、後から洗剤も入れてスイッチを入れました。ここまでは順調でしたが、洗い終わった洗濯物を脱水機へ入れた時に排水して確認しました。洗濯機の底には洗濯物が残っていて、思わず車イスから洗濯機を掴まりながら立ち上がりました。そして、手を伸ばしてその洗濯物を取ろうと思った瞬間、自分の身体が頭から洗濯機の中に落ちて逆立ち状態になりました。(爆笑) 洗濯機の中で動けず、約 20 分間の逆立ちのまま大声で助けを求めました。誰か、助けに来てくれるのか？ が不安でいっぱいでした。(笑) 洗濯場で洗濯機から足が出ているのを異変に気付いた介助職員さん達によって無事救出されました。この時は冷や汗をかいたけどヤレヤレでした。(笑) 一人の男性職員さんからは『何してねん！！』とツッコまれました。(笑) その後、男性職員さんと相談して自分で洗濯物を取りやすいようにと針金のハンガーを使った特製の長いマジックハンドと一緒に考え作ってもらいました。その特製の長いマジックハンドを使って、高等部卒業するまで自分で洗濯する事が出来ました。この経験こそ自分の自立の原点でもあり鉄板のネタにもなっています。

この 3 つエピソードは、すべてフィクションではなく本当に経験した事を書いています。(笑)

他にもまだまだたくさんの武勇伝が、あります。またの依頼があれば、書きたいと思っています。このページを最後までお読みいただき、ありがとうございました。



イラスト作 ダンディゴリラ

あめふらしい編



みなさんこんにちは。あいえるせんたー逆瀬のあめふらしいです。

今回は僕が高校時代に起こった出来事について書きたいとおもいます。僕の高校は全寮制といって、男子も女子も学校の中にある宿泊施設のような所で同級生や先輩・後輩と生活していました。たまに学校のルールをやぶってこっそり女子寮を覗きに行こうとしたら、後一步のところで先生に見つかり「くそっ！なんでやねん！！」とおもいながら仕方なく部屋にもどりました。学校のルールでは、なるべくできることは自分でやるというルールでした。なので、できるだけ自分でやっていました。もし、困った事があつたら自分から先生や友達に介助を頼まないと手伝ってくれませんでした。そんな状況で経験した出来事です。

ある日の夜中、僕はトイレに行きたくなりました。僕がトイレに行くには介助が必要でした。いつもなら寝室のベッドに職員室に繋がるインターホンがあって、それを押すか、一緒に寝ている仲間を起こして、職員室の先生を呼んできてもらっていました。僕はいつも通りインターホンを 4 回ぐらい押しましたが先生からの応答はありません。僕はおかしいなあという気持ちとどうしよう！という不安で少しずつ焦りはじめました。しばらく考えた後、僕の前のベッドに寝ていた仲間の名前を 2～3 回呼びましたが、起きてくれません。

僕の心の中は焦る気持ちと漏れそうという気持ちで大パニックになり、僕のベッドの横にあった着替えや洗濯ができる台の上に気がついたら移動していました(笑)そこから無我夢中で前向きに床に飛び降りました。無傷だったのは、奇跡です。その後、必死で部屋のドアを開けようとしてしました。僕の寝ていた部屋のドアはスライド式だったので、「開け！」と心の底から願いました(笑)なんとかドアを開けて、廊下にでました。

そして、普段なら電動車椅子で 5 秒かかる廊下を真っ暗な中 2～3 メートル這いつくばって体感的には、2 秒で這って進みました。怖いとか気持ちはなく、「誰か助けてくれ～」という感じでした。無事に職員室の前につくと「漏れる！漏れる！先生お願いやから気づいてえ～(涙)」と思いながら職員室のドアを必死で叩きました！



そしてやっと先生が気づいてくれました。

廊下に這いつくばっている僕の様子をみて、

ゾッとした顔をした後、

「なにしてんの！！〇〇くん起こしなさいよ！」

と怒られました。

最終的に漏らすことなく、

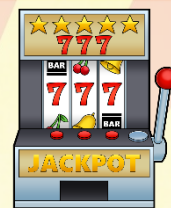
無事にトイレに行くことができました(笑)

「あ～助かった」と思いました。

人間いざとなると、何事も乗り越えることができるんやなあーって思います。僕もこの経験をするまでは、行動を起こすことにはすごく慎重でした。皆さんも色々な場面で悩むことや、迷うこと、そして迷っている自分を責めたり、嫌いやなあーって思う時もあるとおもいます。僕もそのひとりです。自分自身にも言い聞かせていることなんですが、そんな時はチャレンジした自分を褒めてあげましょう！そして、もっといろんなことにチャレンジしてみましょう！ただ無理をする必要はないと思います。僕の話聞いて、少しでもチャレンジしてみようと思ってもらえたら嬉しいです。一度きりの人生！楽しみましょう！！

後日、その寝室のベッドで先生が柵を付け忘れたせいで、寝相の悪かった僕は、落ちそうになり、「あっ！！やばい～」とスローモーションで、インターホンを押しながらゆっくり落ちました。落ちた先はベッドと机の間…先生が助けに来てくれるまでの 5 分間冬の寒さで「いったい僕はどうなってしまうのだろう…」とベッドと机の間に挟まり待ちました。

勝負師編



私の 30 年前、若いころの話です。施設生活をしていました。

その頃と言えば施設の方針で自由に 1 人で外に出られませんでした。

その中でも「これは武勇伝」と思うのは、神戸の元町に出かけた時の事です。

21 時まで、施設に帰らないと施設に入れません。どうしようかと考えていました。実家に戻るのも実家に迷惑かけるし、21 時に戻るという書類を出していたので、そこで、19 時にまだ元町をうろついていたので間に合うか分からなく焦っていた私は、食べたかった餃子を多めに買って 21 時までの勤務の人や夜勤の人にあげて食べてもらい遅刻を見逃しておうとしました。賄賂みたいなもんですね(笑) 急いでいたので、私は何とか 20 時 50 分頃に施設に戻れました。間に合いましたが私は、餃子を宿直室で職員に渡しました。多めに餃子を買っていて、とても一人では食べきれないので冷めてはいるけれど、この味を食べてもらいました。そんな事を何も知らない職員は喜んでいました。その後、餃子は 21 時半から 4 人部屋で食べました。美味しかったです。同室の人は、臭いがきつかったと思います。あの時はごめんなさい！！！！

それから何年か経って私は、1 人暮らしを始めました。会議に出て神戸からの帰り、そのまま駅に行ったらいいのに、私は散歩がてら一駅歩きたくなくて私は行こうと思いました。それが悲劇の始まりでした。(笑) 広い道を通っていたら駅に着くと思っていました。そこに歩道橋があってそこを渡らないと駅にたどり着かないと思ったので歩道橋を渡ろうと思いました。登りは点字ブロックが付いた全面のスロープでよかったのですが、下りの道の両端は階段で真ん中はスロープでした。どこかでハンドル操作を間違えたらこけるのがわかっているので、戻るのも正解だと思いますが、何を考えたか、私はゆっくり通ったら降りられると思いそのまま通りました。半分ぐらい通っていたらバランスを崩して、『やっちゃったな』タイヤが段のところに乗って転んでしまい気が付いたら、私は「ここはどこ？私は誰？」状態で記憶が飛んでいました。消防署か警察署で気絶中——(爆笑) 転んだ時の事を私は覚えていませんが、私は悪い事を起こして逮捕されたかと思ったら歩道橋でこけただけということが分かりました。(笑)

どこかの誰かが通報してくれたんだろうと思います。(ありがとうございました、誰かもわかりませんが、もし女性なら連絡先を聞くべきであった、笑) その時、私は気絶していてどうなったのか何も覚えていません。気が付いたら 30 分ぐらい経っていました。気が付いた私は、ヘルパーとの待ち合わせ時間もあったので慌てていました。

消防署か警察の人がヘルパーに連絡してくれたと思うのですが消防署か警察署でヘルパーにも出会うことが出来て良かったのですが、何も知らないヘルパーは何をしてるねんとびっくりしていました。(笑) 転げ落ちたのにもかかわらず、これといったケガもせず、普通に次の日からアイエルに通っていました。タダでは起きない私はアイアンマンかと思いました。

(shou ちゃんかっこいい)『オリラジ風に』

武勇伝はまだあるので次の機会にまたご紹介します。
ダンダンダンダン♪



恋する季節

ペンネーム 聖・少女

こんにちは😊

聖・少女です。

私が尼崎養護学校を卒業後、カトレアの園に入りました。

入ったその日、初めて家族と離れて寂しかった。

次の日は、カトレアのみなでお花見🌸に行きました。

行ったところは通っていた学校の前の老人ホームでした。桜の花🌸を見に行ったけど、私は『学校に戻りたいなぁ』と思いながらながめていました。

次の日の朝、職員さんが『おはよう!』とかけられた声が、お父さんの声に聞こえました。

その日の夜に友達のお母さんの車に乗せてもらって、家まで送ってもらいました。家の玄関でお父さんとお母さんの顔を見れて嬉しかった。でもお父さんから『カトレアに帰った方がいいよ。金曜日か土曜日にぜったい迎えに行くよ』と言われてカトレアに帰りました。

夜になると家の事を思い出してお父さん、お母さん、妹は、今頃何しているのかなぁと思ってホームシックになっていました。

それで毎日カトレアから、お母さんに電話をかけて『家にいるのなら来て』って言ったら、電車で来てくれました。

今思うと大変だったと思います。それでお母さんがお互いに離れる方法を考えて私に『お母さんはパートではたらきに行く』と言って離れる事になりました。

私も離れないといけないのは分かっていましたが、平日は我慢して土日家に帰る事がとても楽しみにになりました。

しかし、楽しい分やっぱり帰りが凄く悲しくて…

私はあったかい家族が大好きでした。それは、離れて分かりました。家に居てる時は分からなかった気持ちです。





12198 号 2022 年 4 月 8 日 発行



私が 25 歳ぐらいの時

私と将来一緒に暮らそうねって言ってた 1 番仲良しの 2 人の友達が結婚して『良かったね。幸せになってね』と思ったけど、私の気持ちは複雑で友達の旦那さんに、やきもちを妬いてしまいました。

私の中に結婚と言う焦りもあって、モヤモヤした気持ちになったと思います。その後、私にも素敵な彼ができました。

つらい時に声をかけてくれたのが彼でした。

この時にやっと彼の存在に気がつきました。

毎日夜になると、食堂や作業場でよくいろんな話をしました。

昔やっていた、とんねるずのテレビ番組のプロポーズ大作戦（公開プロポーズ）、フィーリングカップル（男女 5 人ずつで質問などをして最終的にカップルになるゲーム）をカトリアでした時は、いつも彼を選んでいました。

フィーリングカップルの時は彼も私を選んでくれました。

嬉しかった。💖

カトリアにいる頃に二人で介護タクシーを頼んでヘルパーさんと西宮ガーデンズに行ったこともありました。

そののちに作業場で初めてのキスをしました。

ちょっとびっくりしました。

でも今思うといい思い出です。💖

若かってんね！

あの頃は、二人で楽しい時間を過ごしていました。

そののちにカトリアがグループホームを作って、彼は離れて行きました。私にもグループホームの話が出ましたが、不安もあり勇気が出ませんでした。

それで私は彼がカトリアに来る木曜日と金曜日が待ちどうしくて、楽しみに待っていました。

いつも金曜日の日、彼が帰るのを姿が見えなくなるまで見守っていて、その後で私はいつも一人で泣いていました。

私は彼と一緒にいつかカトリアに通いたいと思っていました。

二回目のグループホームに行く話が出て、私はお父さんに話をしてカトリアで職員さんと一緒にいろんなことを勉強して、グループホームに来る事が出来ました。
みんなに感謝をしています。

それで私は今、彼と一緒にあいえるせんたーに通っています。

そのほかにカトリアの園にも通っています。

私は今とっても幸せです。 皆さんありがとう😊



ゲーム好きの社会人2年目が 聞く！一人暮らしの話編

ペンネーム：ファイヤーパセリ

こんにちはファイヤーパセリです。今回は一人暮らしに向けて、あいえるで一人暮らしをしている障害者スタッフに実際はどのような生活を送っているのか聞いた感想を書いていきます。

まず、話を聞いていて思ったことは楽しそうだということです。そして、自由度が高いと思いました。なぜかという、自分の好きなご飯を作って食べれたり、スケジュールを自分なりに決めたりできるからです。僕だったら部屋中にポケモンのフィギュアを置きまくって毎週とんかつを食べてゴロゴロする日を、一週間に一日作れるような自由な生活をしてみたいです。

しかし、一人暮らしするのは大変だなと思ったこともあります。それは、親の説得です。親の説得が大変だったと皆さん言っていました。親だけでなく周りの人からも「無理」だと言われていたそうです。僕の親も一人暮らしをしたら必ずと言っていいほど反対するんだろうな—とっていて不安な所です。僕が一人暮らしを親に「寝返りも出来ないのに何言ってんねん！！」と反対されたら、一人で寝返りが出来るところを見せて、一人暮らしをする許可をもらおうと思います(笑)

次に、僕には意外だと思った所です。それは、僕の思っている以上に一週間に入浴回数が多いということです。僕は一週間に3回入浴をしています。

ですが、僕が話を聞いた方々はほぼ毎日入っているらしいです。ちなみに、体を拭くだけの日もあるそうです。

僕はお風呂が好きなので、この話に対して少し憧れを持ってしまいました。僕が一人暮らしをするなら、一週間に6回は入浴したいです。

お金の管理はどうしているかを聞いてみましたが、財布を2つ持つ人が多く仕事用とプライベートで財布の使い分けをされている感じでした。僕もこの方法には納得で、一人暮らししたらぜひ試してみたいと思いました。また、光熱費等の必要なお金を金庫に入れて保管している人もいました。お金のことは気になっていたので、こんな方法があるのかと思いました。

朝はヘルパーさんに起こしてもらう人もいました。そこで僕の中に一つの疑問がありました。それは、朝どうやってヘルパーさんに部屋に入ってきてもらうのかです。それを質問すると「キーボックスに入れているよ」と答えてくれました。キーボックスとは何かの説明もしてくれました。キーボックスとは鍵を入れておいて暗証番号でロックしてドアノブに掛けておく物です。知らなかったものでそんな物があるのかと驚きました。

今回話を聞いてみて、工夫次第ではだれでも一人暮らしが出来るんだなと思いました。

また、なかなか聞く事の出来ない話を聞けたので貴重な経験になりました。

早く一人暮らしがしたいと思いました。

次回の一人暮らししてみた編でお会いしましょう。

ボッチャで繋がる縁



ペンネーム はるかぽていと

皆さんこんにちは、はるかぽていとです。12月17日（金）～19日（日）まで神奈川県藤沢市の県立スポーツセンターのアリーナでボッチャの大会がありました。選手が全国から来ていました。17日（金）は公式練習だけです。しかし、公式練習する前に熱がないかの検査と朝、家でして来たコロナの検査キッドの提出がありました。私みたいに一人暮らしをしている人は検査の作業も大変だと思いました。私の場合は左手が動くので検査をして朝、家で出来ました。家出て電車にのり、新幹線に乗り換えと電車を4度乗り換えし5時間半かけて会場につきました。

会場につくと、自分のボールの検査がありました。公式の1つのボールの重さが260g～280gです。大きさも決まっています。ボールを転がす器具は10cm転がらないといけません。検査の結果1回目に2つも自分のボールが使えなくなりました。2回目の検査も18日（土）の試合の前にありました。ここでも自分のボールが10cm転がらなかったのでもた、1つボールが使えなくなりました。全部で3つも自分のボールが使えなくなりましたが2つボールを余分に持っていたので1つだけで済んだのはいいが、協会のボールを1つ使わないといけなくなり、落ち込みました。協会のボールだと転がり方が分からなく、すごくマイナスになります。この出来事で集中力がなくなり相手も上手かったので1試合目を1対7で負けてしまいました。2試合目は気を引き締めて集中したので、3対2で勝ちました。3試合目も5対0で勝ちました。2勝1敗の人が私を入れて3人いました。2人しか19日（日）の決勝トーナメントに行けません。1試合目の負けが7点も取られたのが大きく残念ながら私は決勝トーナメントには行けませんでした。

その帰りの話です。金曜日は人に聞いてすぐにホテルに帰れたのに土曜日は道に迷ってしまいました。ホテルへの帰り道が分からなくなり最初にホテルの行き方を親子3人に聞きました。快く教えて下さったのですが、気が付いたら道を行きすぎたのか？また、わからなくなってしまいました。そこで信号待ちをしていた若い女性2人に聞いてスマホで調べてもらいました。反対の道に行っている事がわかり、元の道に戻りました。そうすると最初に教えてもらった親子3人に出くわしたのです。3人とも迷っていないかと探していたと言うので私はとても嬉しくなり、本当になんていい親子なのかと思いました。3人ともホテルまで一緒に行ってくれました。なんとかホテルに着いたら後ろを向いたら3人はいなくなっていました。名前聞かず挨拶もお礼も出来ていないので、とても気がかりに思っています。私自身は、何かお礼が言いたいと思います。もしその親子がこのニュースを読んでもくれたら私に教えてください。よろしくお願いします。

ボッチャの試合の話に戻ります。19日（日）の決勝と3位決定戦を見に行きました。知っている人が3位決定戦に出ていましたが4位になりました。その人は、私と前に対戦した時より上手くなっていました。若い人は成長が早いと思いました。最後に私は決勝トーナメントに行けなかったけど親切的な親子に会えて良かった。嬉しくて感謝しています。また、会いたいなあ～と思っています。有難うございました。

あとちょっとお願いします！！

ペンネーム なごん



こんにちは、とことこニュースでは久々の登場のなごんです。
今回は読んで頂いた方にも少し考えて頂きたい内容を書きたいと思います。

皆さんの町を思い出して下さい。今では当たり前の様に駅や公共施設に車いすで活動ができるようにエレベーターやスロープが取り付けられて、障害者差別解消法もでき町の中でも車いすの方を見かけるのが多くなってきて、自分らしい生活ができる様になってきたのはとても良い事だと思います。しかし昔は、障害者がいる事を隠していた時代で障害者差別が当たり前の時代でした。そんな時代に「青い芝の会」(脳性麻痺の当事者、保護者が国に色んな制度を訴えていった会)が、力を合わせて障害があっても健常者と同じようにバスに乗れないのは、「人権差別だ」とバス会社相手にバスジャックを起こして抗議した出来事が今でも語り続けられています。そのような障害者運動より少しずつ障害当事者の事を理解していこうと思う社会になったのではと思います。

そのお陰で駅やバス等エレベーターのない時は駅員さんや運転手さんに頼むと車いすを抱えて階段を上り下りしてくれるようになりました。公共交通機関では、障害当事者にだいたひ理解できてきたと感ずますが、世間一般の方にはまだまだ理解してもらえないのが現実です。

3年程前の話ですが、民生委員活動されている方に障害者に「どのように声掛けたらいいのか？」「何かお手伝いしたいのですが！」と聞かれたことがありました。私はその時に「障害当事者は特別な人」と思っているんだなあとと思い「私達は特別な存在ではなく少しの手助けが必要なだけで、声をかけてくれると嬉しいです。」とお話させて頂きました。少しでも、地域の方に理解してもらえたのなら嬉しいなあ～と思いました。

公共交通機関も良くなってきているとは言え、まだまだ疑問に思っている事があります、駅のホームやバスの中で放送している「お身体の不自由な方にお声を、お掛けください。」と放送されていますがこれって本当に必要なのかなあ～？と疑問に思うのは私だけなののでしょうか？どんな時でも困っている方を見かけたら声を自然と掛けられるあたりまえの地域や町になってほしいものなあ～と私は感じています。

大きいレストランや公共施設などはエレベーターやスロープが義務化されていて車いす利用者は利用しやすくなってきましたが、昔ながらの個人のお店は入口段差があるのが多いので諦めてしまう人が多いのではないのでしょうか？

障害者を支援する法律ができ、3年前には障害者差別解消法等が作られて社会的には障害当事者にとって暮らしやすい社会になって、当たり前の生活ができることは嬉しいです。

しかし世間の考え方や見る目は私たち障害当事者を特別な存在で、関わりたくない存在なのかな～と思われる場面が多々見かけられます。そういうことが無くなる街づくりを願っています。町の掲示板に中学生の「心の段差を無くそう」等いい言葉をよく見かけますが、これから障害当事者が理解されて、のびのびと生活できる社会になってもらいたいものですね。私も微力ですが、障害当事者を理解してもらえような活動を積極的にしていきたいと思っています。



「お！聞きたいか！俺の武勇伝！！」「誰も聞いてませんよ By なごん」

皆さんこんにちは、前回のニュースも様々なご声援頂き本当にありがとうございます。
おかげさまで今回も無事とことこニュースの発行出来ました。今回のとことこニュースも障害者スタッフの気合の入った原稿が盛りだくさんの内容になっています。今回のヤンチャな『武勇伝』ですが、何故『武勇伝』か？と言うと『みんなにもっといろんな事にチャレンジして、いろんな楽しい経験をして欲しい。もし失敗してもその経験は、いつか『武勇伝』になって面白い話になるんだ！チャレンジするから人は成長するんだ！と知って欲しい！！だから失敗を恐れずにもっといろんな事にチャレンジして欲しい！！』との熱い思いで書いてくれました。実際今は、コロナ禍で少し弱気になったり、消極的になっている部分も多いと思います。それを笑い声で吹き飛ばしてくれる内容だと思うので皆さん遠慮なく笑ってあげてください。

ちなみに僕も何か一つ『武勇伝』と思ってめちゃめちゃ考えたんですが・・・なにもありませんでした・・・。なんて面白くない人生なんだと落胆しましたが、みんなの原稿を読んで、今からでも遅くない！！何かにチャレンジしてカッコイイ『武勇伝』の一つでも語れる男になりたい！！と思いました。皆さんも良かったら自分の『武勇伝』を考えてみてください。もし

「これは！！」と思う『武勇伝』がありましたらとことこニュースに寄稿してください。
次号もどうぞよろしくお願いいたします。

理事長 川原崎浩史

編集部のお知らせを、本来54号で行うべきでしたが、失念しておりました。申し訳ございません。
編集部は、今後も下記の住所となりますので
今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

特定非営利活動法人とことこニュース

編集人 特定非営利活動法人とことこ
編集部 〒665-0033
住所 兵庫県宝塚市伊子志4丁目1-64-126
TEL&FAX 0797-61-5381
E-mail ilsakase.life@gmail.com

「アイエルセンターへのご寄付の方は」
「下記に振込をお願いいたします」

池田泉州銀行 山本支店 普通 28004
特定非営利活動法人 とことこ 理事長 川原崎 浩史

ホームページ URL



発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町二・二 東興ビル4F
一九八四年 八月 二〇日 第3種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行 価額百円